

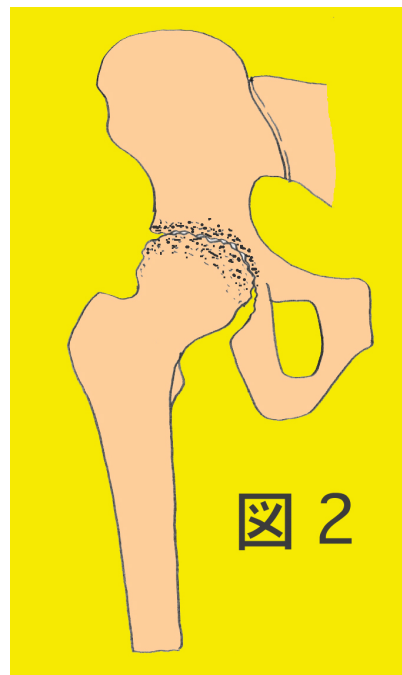
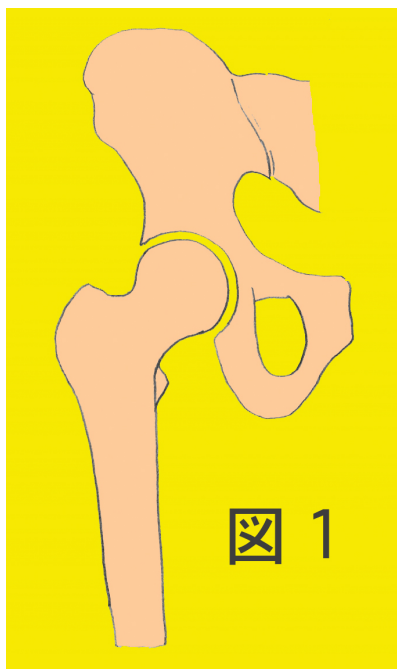
人工股関節手術とは

1. どのような人が人工股関節手術を受けるのですか？

おもに変形性股関節症や関節リウマチの患者さんで、股関節の軟骨がすり減った状態となり、痛みが強くて歩けないかた、股関節の動きが悪くなったかたがこの手術の対象となります。

2. 手術はどうやって行うのですか？

全身麻酔で行います。以下に変形性股関節症のかたを例に説明します。関節リウマチの患者さんも基本的に同じです。



- 1) 図1は正常な股関節で、軟骨はすり減っておらず、動きもスムーズです。
- 2) 図2は変形性股関節症のかたで、正常な軟骨は消失してしまい、むき出しの骨どうしのすり合わせになっています。
- 3) 手術はまず傷んだ部分の骨を削り取ります。
傷んだ部分の骨を削りますと図3のようになります。
- 4) ここに人工骨を入れて固定します（図4）。
- 5) 左右の脚の長さが違う場合は同じになるように調整します。

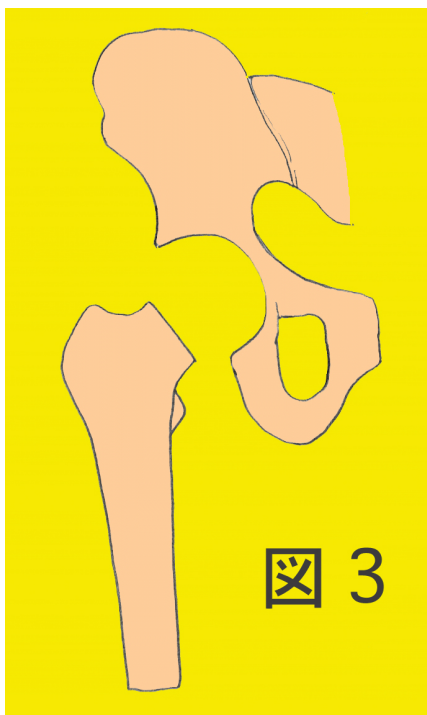


図 3

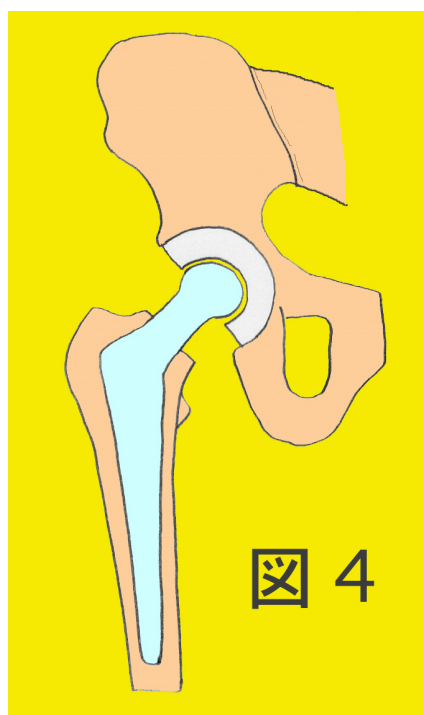


図 4

3. 人工骨は何でできているのですか？

骨盤側（白色の部分）はプラスチック（超高分子ポリエチレン）です。
大腿骨側（水色の部分）は金属（クロム・コバルト・モリブデン合金）で金属表面はハイドロキシアパタイト（セラミック）でコーティングしてあります。

4. 痛みはとれるのですか？

今まですり減った骨どうしでゴリゴリと動かしていた部分が、金属とプラスチックのすりあわせになりますから、もう痛みは感じません。

5. どれくらいの耐久性がありますか？

人工股関節も長年使用しますと、プラスチック部品の摩耗、取り付け部のゆるみ、などが出現しますので、永久にもつわけではありません。使い方しだい（人工股関節で重労働やスポーツなどはしない）ですが、およそ20年ぐらいの耐久性があります。
大事に使えばもっと持ちますので手術後は不具合が生じないかどうか定期的に検診させていただきます。



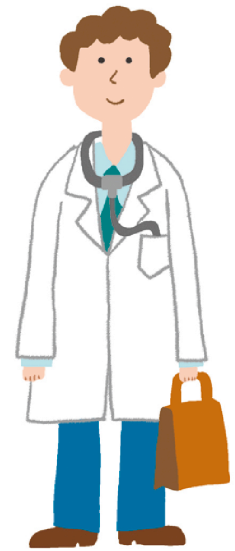
6. もしダメになったらどうするのですか？

部品の交換手術をして新品にとりかえます。

7. 入院期間はどれくらいですか？

歩くためのリハビリテーションなどの治療期間を全てふくんで4週間程度の入院となります。

退院後は定期的に診察させていただきますがリハビリのための通院は不要です。



8. 手術はむずかしいのですか？

どこの病院でも行えるという簡単な手術ではありませんが、工業病院ではこれまでに1500件以上の人工関節手術を行っており、この手術の経験は豊富です。また厚生労働省の指定する人工関節手術の施設基準も認可されています。

9. 合併症にはどんなものがありますか？

合併症がまったくないという手術はありません。完璧に行われた手術でも予期せぬ合併症がおこることはあります。

予防のためにまずは患者さまご自身の病気、たとえば糖尿病があるとか、心臓が悪いとかによって手術後の合併症が起こりやすくなりますので、手術前にすべて検査させていただきます。

人工股関節手術の合併症としては、深部静脈血栓症や肺塞栓症、転倒などによる骨折や脱臼、術後感染（手術の化膿）など、合わせて5%程度のかた（100人に5人）におこりますが、いずれも適切に対処させていただきます。

深部静脈血栓症・肺塞栓症については別のパンフレットにて詳しくご説明しております。

その他、わからないことは何でもおたずね下さい。

川口工業総合病院 整形外科

〒332-0031 埼玉県川口市青木 1-18-15 Tel: 048-252-4873 Fax: 048-252-4865